



若あゆ



大人と子どもが 心を通わせて

校長 米原 大司

「^{いちげつ}一月往ぬる、^{にげつ}二月逃げる、^{さんげつ}三月去る」と言いますが、早いもので年が明けてからあっという間に2カ月が過ぎました。猛威を振るったインフルエンザB型もようやく収束し、春を感じさせるような穏やかな日差しが出る日も増えてきました。

2月6日に開幕したミラノ・コルティナオリンピックが22日に終わりました。開幕当初は「今年は冬季オリンピックがあるんだ？」ぐらいにひっそりと始まりましたが、日本としては冬季五輪最多の24個のメダルを獲得し、大会が進むごとに大変盛り上がりを見せました。夏季五輪と比べると冬季五輪は競技が天候に左右されることがあり、前評判通りの結果にならないことも多く、様々なドラマと感動が生まれました。

さて、2月20日に本年度3回目の学校運営協議会がありました。学校運営協議会は、学校、保護者、地域の代表者が集い、本校の教育活動の充実のために話し合いをしたりいろいろな支援をしていただいたりするための集まりです。そこでの話し合いは、熟議と呼ばれ、熟議では小グループに分かれてテーマを決めた話し合いを行っています。

本校では、前回の会議から、児童の代表者もその熟議に参加しています。前回の会議では、代表委員会からあいさつ運動について、SDGs委員会からは節水・節電やフードロスの啓発活動についての発表があり、熟議では子どもたちからそれぞれの活動についての相談があり、運営協議委員の方々からの助言をいただきました。

今回の会議では、SDGs委員会からフードロスについての実践発表後に、前回と同じグループでその後の進捗状況の説明や活動に取り組む際の課題についての子どもたちからの相談がありました。代表委員会のグループでは「あいさつ運動に参加していただいた大人の方に名札を作成したけれどそれでよかったのか？」というような相談がありましたが、保護者の方から「名札をもらって嬉しかったよ」というような答えがあり、子どもたちはほっとした様子でした。そのほかにも、「大人の方からもっと声をかけてほしい」という発言に対して、「子どもたちからも声をかけられるとよいね」という意見も出て、今後のあいさつ運動のヒントをいただきました。SDGs委員会は自分たちで作成したフードロスの啓発ポスターを地域の方に渡し、自治会等の掲示板に貼っていただくことになりました。学校運営協議会の取組については、子どもにも保護者にも地域の方にも、もっと知っていただきたいとの意見が出ましたので、様々な場面で情報を発信したいと思います。

子どもたちが学校運営協議会に参加することで、会議に参加した大人も子どもも自分事として学校の教育活動に向き合えるようになってきました。この機運を学校に関わる皆様とも共有し、広げていきたいと思っています。